

第3回 三学期制移行準備委員会 要点記録

【事務局】

ただいまより、第3回三学期制移行準備委員会を開会する。

議事に入るまでの進行は事務局で行う。

今年度から、異動により当準備委員会の委員長が変更となった。委員も一部変更となったことを報告する。

【委員長】

来年から練馬区は新しい三学期制となる。今回は、今までの2回の議論のまとめとなる。よろしくお願いします。

【事務局】

続いて、副委員長の選出を行う。副委員長は当委員会の設置要綱により、委員長が委員の中から指名することとなっている。

【委員長】

副委員長は、教育指導課長を指名する。

【事務局】

これより、進行は委員長にお願いします。

【委員長】

それでは、次第に沿って進めていく。

○議事 (1) 新たな三学期制の基本方針について (案) (資料3)

【事務局】

—資料3に基づき説明—

【委員】

準備部会の議論を踏まえて修正されて良くなっている。

2(3)について、前回の案には、次期学習指導要領の改訂についての記載はなかった。次期学習指導要領の改訂に向けての学校行事の見直しというのは、三学期制が始まってから見直すのか、今から見直しの検討をするのか。

【事務局】

学習指導要領の改訂はまだ正式には示されていない。改訂が公表されてから対応することとなる。

【委員】

教務園務担当者研修会で話し合った中で、二学期に出す通知表に4月から12月までの評価を記載することを考えているという学校があった。それは学校の裁量で構わないことなのか。

【事務局】

学期ごとに評価するのが原則である。ただし、三学期に出す通知表が年間の評価とすることは可としている。

【委員】

4月から12月までの評価で出すというのは、思考力とか判断力とか表現力といった能力的な評価の場合で、一学期を積み上げた結果として二学期がどうかの評価という意味か。

【委員】

自分の学校の話ではないので詳しくは分からないが、聞いたところでは、3年生が東京都に提出するために4月から12月までの評価を出すので、1、2年生も同じようにすることを考えているとの話だった。

【委員】

この委員会での話としては、年3回出すということを決めるまでで、内容は校長の判断でよいのではないか。

【副委員長】

通知表は各学校において作成するものなので、記載内容などは校長の判断で定めることができる。教育委員会で内容について統一して決めるものではない。資料3での表記は工夫したい。

【委員長】

二学期の通知表の発行の欄で「二学期までの」と記載するのがよいか。

【委員】

「二学期までの」と記載することは反対である。4月から12月までを含めたという意味合いが強くなる。含みをもっているということで、今のままの記載でよいのではないか。あとは学校裁量の範囲内であるとして学校が説明すればよい。

【委員】

資料3の別紙だが、準備部会での検討の際に見落としていたが、冬季休業の中で、学校で行うことの記載がない。入れていない理由は何か。

【事務局】

冬季休業日に面談や学力補充教室等を行うのは困難と聞いていたため入れていない。何も学校で行わないと思われる可能性もあるので、夏季休業、春季休業に準じて記載することとする。

【委員長】

入れるとしたら、どういう内容を記載するか精査しなければならない。

【委員】

記載がないと、夏季休業と春季休業と比べてバランスが悪い。新年の声かけ等を行っており何もしていないわけではない。しかし、必ず記載すべきと固執してはいない。

【委員】

2(2)の3点目と(3)の3点目の内容は、今の二学期制でも行っていることであり、三学期制になって新たに実施することではない。「二学期制の成果を生かして」等の文言を入れた方がよい。新しく始めるかのように読めてしまう。

【委員】

今回の新たな三学期制の特徴が、夏季休業が二学期に入り、冬季休業が三学期に入るということだろう。そのことが強調されるように別紙と資料4の表記をもう少し工夫した方がよい。今の表記では、夏季休業の後に二学期が始まると見える。

【委員】

PTAとしては、学期制がまた変わるのか、というのが率直な感想である。制度が頻繁に変わりすぎる印象がある。その印象を和らげる言葉が冒頭にあった方がよい。学期制は変わらないに越したことはない。

【委員長】

内容について受け止めさせていただき、検討させていただく。

【委員】

個人面談は、今は夏休み中に行うことが多いと思うが、三学期制になっても引き続き夏休みに行うのか。

【事務局】

各学校で児童の状況等により考えることだが、通知表を配って後は何もしないということにはならない。ただし、夏休み中に面談を行うか、通知表配付の前後になるかは学校判断となる。

【委員】

資料3が学校に配られるのはいつか。

【事務局】

教育委員会で決定して学校に配ることになる。教員向け資料は別途作って配付する。いつになるかは具体的にはまだ決まっていない。校長会等で説明を行う。

【委員】

スケジュールが未定とのことだが、このままいくと、教員も資料4で初めて理解するようになるのではないか。

【委員長】

資料3は議会や一般区民等に対して区が公に出す資料となる。資料4はそれをいかに周知するかの資料となる。なお、資料3は7月の合同校長会には示し、資料4のリーフレットは夏休み前に出すといったスケジュールで考えている。

【委員】

2(3)の1点目のところだが、新しい学習指導要領はまだ示されていない。「踏まえて」と書くのはおかしいのではないか。「備えて」とか「見通して」とかの表現の方がよい。

【副委員長】

リーフレットでは「見据えて」に統一していく。

【委員長】

文言は揃えた方がよい。

それでは、関連するので資料4の方の議論に進み、何かあれば資料3に戻るということで議事を進める。

○議事（2）三学期制リーフレット（案）（資料4）

【事務局】

－資料4に基づき説明－

1 ページ目の日付は訂正する。正しくは平成27年7月である。

【委員】

「一学期」なのか「1学期」なのか表記を統一した方がよい。

【委員】

三学期の通知表の発行のところで、年間の評価を出すかどうか、資料3と表記が異なっている。資料3の表記の方がよい。

【委員】

4 ページ目について、児童を主体とする文章とすれば、「家庭では」「学校では」と記載しなくてもよいのではないか。

【委員長】

学校が何を行うのか、家庭ではこう取り組んでほしいといったことを伝える趣旨もある。

【委員】

学びの連続性のイメージで、1学期の括弧書きの内容が限定的すぎる気もする。小学校と中学校で共通の広い内容にできないか。2学期で、学習指導要領の改訂を見据えるなら、「主体的に話し合い、聞きあって進める学習活動」という内容が、国語科を強く連想させる。「主体的に協働的に進める学習活動」などがよいのではないか。3学期で、「高め合う人間関係」というのがどういう意味なのか。学習指導要領では「より望ましい人間関係」と表現されているので、「より望ましい人間関係を築くとともに成果と課題を自覚できるように」という表記の方が広く理解してもらえるのではないか。児童生徒と保護者のイラストが同じである。子供は「切り替えにくい」とは使わないだろう。「切り替えしづらい」と言った方が、保護者、教員と共通した表現になってよい。

【事務局】

イラストはまだ仮の段階である。差し替える。表現はさらに精査する。

【委員長】

「高め合う人間関係」というのは何か出典があるのか。

【事務局】

当委員会の中でも何回か委員から出ていた言葉である。この言葉が受け取りにくいということであれば修正を考える。

【委員】

2 ページ目の下にある「学びの段階」という表記に違和感を感じる。「学びの過程」と言うのがよいのではないか。「学びの過程を明確にし」と言った方がよいと思う。スパイラルに成長していくというイメージは私も賛同するが、「段階」ではないように感じる。

【事務局】

この文言は大切である。委員会としての意見であれば改める。もう少しご意見いただ

きたい。

【委員長】

今まで「学びの段階」という言葉は使っていたのか。

【委員】

最初から話には出ていた。当初は「基礎」といった言葉を使っていた。それは「段階」と言える気もするが、学びは「段階」ではないと思う。

【委員】

グラフについて、これを見ると、小学校の先生の過半数が三学期制ではない方がよいと考えていると捉えられる。先生方がどう思っているかを保護者は敏感に感じる。このリーフレットについて、保護者は教育委員会から配られたというより、学校から配られたと感じる。それで、配っている学校の先生が反対していて大丈夫なのかと心配になる。保護者の前には、先生は不満をもっていない状態で現れてほしいと思っている。

【事務局】

実態を示した上で、でも学期制は小中学校で統一した方がよいという意見があったということを伝えようという意図であった。それが伝わらないということであれば、もう少し検討する。

【委員長】

今の委員の意見について、先生方の意見はどうか。平成 25 年度にアンケートを行ったのは事実であり、結果は公表されている。

【委員】

視覚的に小学校と中学校の差が歴然である。こういう結果で、なぜ三学期制をやるのか無理があるというのが印象である。

【委員】

メリハリがつかないとか長期休業の課題が分かりにくいとかいうのは確かに感じていて、練馬区はなぜ二学期制なのかと感じていた。今回、三学期制に戻ると聞いて、やっぱりそうかと思った。しかし、二学期制の良さもあるが、全体的なことを考えて三学期制になるという内容にしてほしい。二学期制のマイナス面だけが出ている。二学期制を生かして三学期制にすると記載していただくと分かりやすい。

【事務局】

二学期制の良さを生かして三学期制にするというコンセプトとしている。しかし、課題があるから変えるわけであり、新しい三学期制により課題を克服するという方針とさせていただいた。これまでの議論の中で、成果は成果、課題は課題として示した方がよいという議論があったという経緯がある。

【委員長】

これまでの議論を踏まえての結果である。表現は考えさせていただく。

【委員】

アンケート結果は公表されている。教員のデータを出さないのも、違った受け止め方をされる可能性がある。成果は成果、課題は課題とはっきり書いた方が説明がしやすい。

しかし、ここだけ見ると二学期制が全て悪かったと思われるかもしれない。二学期制の良さを生かし、課題を克服するために三学期制にするという記載がよいのではないか。

【委員】

学びの段階の表現は、「児童生徒の学びは長期休業日や学期を通して、系統的、螺旋的に進んでいきます」などと書くと、学びの連続性がスパイラルに続いていくということがイメージできるのではないだろうか。

【委員】

少し違う視点での話をすると、現在、通知表の作成は、長期休業中に行うなどしている。それが、三学期制になって、長期休業前に作るとなると、その分4時間はかかる。年3回で12時間分である。また、二学期制と三学期制と比べるとそれだけで4時間分が削られるとの話が準備部会の中であった。合計で16時間が削られることになる。以前、二学期制にした時には、長期休業日の短縮もセットとして授業時数の確保をしていた。その後で、土曜日授業が出てきた。三学期制になって、通常授業期間に16時間が必要という数字は大きい。自分の学校では土曜日授業を年10回行っているが、それはそのまま残し、開校記念日や都民の日も使わざるを得ないのではと考えている。そこは学校まかせでよいのか。私は学校まかせでよいとは思っているが、しかし、今回は学校まかせにするということで、以前、二学期制にした時ほど手厚く示されていない部分が多い。私は保護者向けリーフレットは概ねこれでよいと思っているが、教員向け資料が大切と思っている。その辺のところが詰められないまま学校まかせとされては、制度をまた変えてどういう意味があるのかと不満に思う校長もいるかもしれない。学校現場だけに投げかけて大丈夫かと心配である。

【委員長】

預からせていただき整理させていただく。表現は工夫する。夏休みから二学期が始まるということを強調し、色付けを含めて工夫する。

アンケートで、先生の方だけ載せないというわけにはいかない。練馬なりの良さを生かして三学期制にするということを表現したい。

いずれにしても、誤解のない形で多くの方に理解いただけるようにしたい。リーフレットは夏休み前に配付できるよう準備を進める。

○議事（3）その他

【委員長】

続いて、議事（3）「その他」に入る。事務局から何かあるか。

【事務局】

ご意見を踏まえて検討する。他は特にない。

【委員長】

ご意見全てに対応できると言えないが、趣旨を踏まえて分かりやすく、誤解のないような資料にしていきたい。

以上で、第3回三学期制移行準備委員会を終了する。